

図書館だより

2018年3月号
図書委員会発行 (担当 1-2、1-6)



●新学年に向けて●

寒さが厳しかった今年の冬も日ごとに暖かくなり、過ごしやすい季節となりました。今月で3年生は卒業し、来月には1・2年生は進級します。4月から始まる新たな1年に向けて頑張りましょう。

●3月14日は数学の日●

3月14日と言えば、大半の人がホワイトデーを思い浮かべるとと思います。しかし、実は円周率の近似値である3.14にちなんだ「数学の日」でもあるのです。普段は数学は苦手だからと避けている人も多くいると思いますが、そういう人にこそ、この日に数学の本を読むなどしてはみてはどうでしょうか。

『浜村渚の計算ノート 1～8』 (小説)

『数学ガールの秘密ノート』シリーズ などもお勧めです。

図書館前の展示ケースでは、他に『博士の愛した数式』『天地明察』などを紹介しています



図書委員のおすすめ本

『大地の子』山崎豊子 著 文藝春秋

この本は、中国残留孤児である陸一心の波乱万丈の半生を描いた物語です。彼は第二次世界大戦前に満州の開拓団として長野から中国に移住しますが、終戦後の混乱など様々な事情により中国に置き去りにされてしまいます。

家族離散・貧困・肉親の死など戦争の悲惨さと、その過酷な運命に立ち向かう陸一心の強さに、自分の境遇がいかに幸せかを考えさせられます。

『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 原作 マガジンハウス

中学生コペル君とおじさんが、自分の中の疑問と向き合い、人として成長していこうという物語です。

コペル君は日常でいろいろなことを経験し、それを通して「ものの見方」や「人間の結びつき」「偉大な人間とは」など様々なことを考えます。そして、そのことを聞いたおじさんは、コペル君にこれからどう生きていってほしいかを一冊のノートに記し、将来のコペル君へのメッセージとして残します。読者もそのメッセージを読み、自分の生き方について改めて考えさせられます。80年も前の作品ですが、漫画化もされ、とても読みやすいです。ぜひ読んでみてください。



2017年度(4～2月まで)で貸出が多かったのは『蜜蜂と遠雷』『コンビニ人間』『貴族探偵』『追憶』『かがみの孤城』住野よるさんの各著作、などでした。